

## 私の国の若者の就職活動と人気企業

### ホン・ミオク（韓国）

世界的に就職難が深刻だという中で、韓国もやはり同様の問題を抱えており、中でも若年層の失業率は大きな社会問題です。

#### ■ 若年層の就職に向けた努力

まず就職準備のための活動で、語学研修、英語の個人レッスン、資格取得などがありますが、中でも海外へ語学研修に行く人が多いようです。私の同僚の子どもがこの前大学を休学して英語圏に語学研修に行きました。6か月から1年の研修で、ある程度の語学レベルの向上を目指し、多くの人びとが海外へ旅立っています。また、資格取得も盛んで、専攻別各種資格証を取得する人も多いようです。

ある研究資料によれば、女性や地方大学を卒業した人は就職活動の開始が遅れ、取得した資格証数は多いことが分かりました。また、家庭の経済水準が高いほど語学研修や英語の個人レッスンを経験しているようです。今の40代や50代の人びとが就職活動をしていた時代も、資格を取得することが大きい部分を占めていましたが、最近の就職準備の傾向としては、海外語学研修や英語の個人レッスンが急増しているのが特徴です。

#### ■ 最近の大学生の就業意識について

ある就職ポータルサイトでアンケート調査をした結果、大学生が就職を希望する企業の1位には、サムスン電子が挙げられました。サムスン電子はアンケート調査で2004年から今年まで8年連続で1位を占めています。続いて、国民銀行と大韓航空、NHN、CJ 第一製糖、ポスコ、サムスンモバイルディマス。高校や大学を見事に修了した後、ほとんどの若い女性は社会に出て特定の職を得ます。女性の職業の選択は、教師、助産師、看護師、医師、各種孤児院の院長などの家庭での母親の役割に近いような職業にとどまらず、かつては男性が圧倒的に多かった他の職業の分野にまで広がりを見せています。軍隊に入隊する女性もいれば、現代的なビジネスやコンピューターサービスの世界で働く女性や、公証人、メディアビジネス、ケータリング、広報、マーケティングリサーチ、アートビジネス、劇場などの分野で活躍する女性もいます。今日では、女性が大学で学長や学部長を務めることは、普通のことと考えられています。さらに政治活動に参加する女性が、立法および行政の双方で増えていることも注目すべきです。

#### ■ 変革への推進力

消極的な女性の時代から積極的な女性の時代へと変わったわけですが、こうした変化は突然起きたわけではありません。20世紀にインドネシアの女性の地位が向上されるまでに、過渡期があったのです。この過渡期に、中央および地域レベルの双方で、組織を通じて社会

活動に自らをささげた女性が数多くいました。さらに、各地の状況にあわせ、宗教、慣習、教育、ライフスタイルの多様化と、女性の地位向上のための活動が推進されました。つまり、女性の運動が女性の生活を変革する最も強力な推進力であるといえるのではないのでしょうか。スプレイなどが上位圏に名を連ねました。現代自動車とシンハン銀行、韓国電力公社なども10位圏に入りました。

このように、韓国の就職における人気企業はどれも大企業であることが分かります。

#### ■ 韓国女性の就業意識について

ある研究論文によれば将来自身の職業を持ちたいと考えている女子大学生は98.6%に達することが明らかになりました。すなわち卒業後女子大学生が職業を持つのは当然のことと認識されているということです。また、女子大学生の半分以上がフルタイム勤務を望んでいますが、フリーランサー、パートタイムなどの流動的雇用形態を好む比率も42.0%に達することが明らかになりました。パートタイム勤務を好む女子大学生のうち27.4%が、その理由として「家庭生活に充てる時間が必要」と答えました。

女子大学生が望む代表的な職種は、教師・学院（塾）講師などの教育関連職（17.9%）、教授・研究員などの研究職（8.2%）、公務員（7.6%）、一般事務職（7.5%）などでした。このような職種は多くの女性に適していると、伝統的に認識されています。女子大学生は、これらの職種は安定的であり、また比較的少ない時間の投資で職業に就くことができると考えているようです。

私の個人的な印象ですが、韓国では、昔に比べると、はるかに女性たちの就職活動が活発になったと思います。また、ほとんどすべての女性たちが、職業を持つことを希望しています。